

## 第4回 都市計画マスタープラン見直し検討会議 議事録

日 時：平成27年4月30日(木)15:00～

場 所：消防局庁舎4階災害対策本部室

参加委員：17名（うち代理出席1名）傍聴者1名

事務局：都市計画課、株式会社 集計画研究所

### 1. 開会

### 2. 第3回検討会議における意見等に対する考え方について

#### ●事務局からの説明後、質疑応答

（意見、質問は特に出なかった。）

### 3. 議事（地区別のまちづくりの方針について）

#### ●事務局からの説明後、議事

委員長 地区は全部で12に分けられており、今回4地区分の説明をしていただいた。追浜地区から始めていくが、内容の他にも今回加えた魅力の方針の記述方式や基礎的な資料の出し方などについて、自由にご意見、質問をお願いします。

委員 横須賀の魅力の一つは谷戸地域だと思う。地形に沿った斜面緑地の弓なりの広がりも都市魅力であり、方針には言葉では入っている。しかし、図面上では谷戸地域の斜面に緑が貼り付いた様子がよくわからないので、緑のネットワークや配置、谷戸の地形がわかるような図面にしてもらえると良いと思う。航空写真では地形や緑の様子がわかるが、図面では平地に見えてしまうので、改善の余地があると思う。

事務局 航空写真を1枚入れて地形がわかるようなものにしたいと思う。

委員 他の地区も含めて書き方を見ると理路整然とわかりやすいが、同じようなトーンなので各地区の人の息吹を感じられるような書き方になると良いと思う。追浜地区は特に子どもや若い世代が多く、また中南米の方が多い特徴がある。若い世代が多いことは、自転車に乗って走る人が多く、駅を降りるとすぐにサンビーチ前の駐輪場が目に入ることで感じられる。そうした映像がわかるようなニュアンスを6頁の「便利で活気のあるまち」のところへ入れて頂けるとありがたい。「計画的な住宅開発により、近年は人口の増加がみられ～」の部分には“若い人口”と入れることをお願いしたい。交通網整備については、自転車利用が多いことを踏まえ、“自転車も通りやすい”といったことを書いてほしい。

また、追浜地区は研究機関や自動車産業などのまちの特徴が、駅を降りただけでは感じられないため、駅を降りたときにまちの特徴が見えるようなまちづくりを、今後の整備方針の一つに入れていただけると良いと思う。

事務局                   ご指摘の通り、各地区の記述が同じようなトーン書き方になっている。追浜地区は言われたように、特に子どもが増えている。そうした特徴的なところは入れていきたいと思う。  
地区のまちづくりの仕方についてそれぞれの特徴を考えながら記述していきたいと思う。

委員長                   自転車についての方針は、全体の方針の中では出てくるか。

事務局                   全体の方針には出てくる。

委員長                   具体的な意見だったので、それらを踏まえて検討していただきたい。

委員                    4頁の「～交通結節点機能～」、5頁の「～交差点での交通の整序～」といった普通に聞くと分かりづらい言葉が多く、誰にでもわかる言葉に変えていただけると良いと思う。

4頁の「～新たな産業の立地誘導～」について、新たな産業よりも、いまあるところを絶対に逃さないという書き方にして、日産自動車、住重という大きな雇用を提供してくれるところが抜けてしまわないように、国道357号を一日も早く整備しなければいけない、といった内容の方が分かりやすいのかと思う。

また、追浜地区で子どもが増えていることに関連して、土地利用の中に小学校を残していくことを図面上に落としてもらいたい。小学校についても記述しておいて、小学校があるから住みやすいとアピールしてほしい。

事務局                   分かりにくい用語については、分かりやすく書きたいと思う。

国道357号については、一つは整備を契機に、という考え方はあると思う。

学校用地について、航空写真を入れると言ったが、そういった中に落すなどの工夫をする。

委員                    人口の増減に関して、追浜地区全体としては増加しているが、追浜地区の中でも人口が増加しているところと減少して困っているところがあるが、いまの案には見えてこない。

それに関連して、谷戸地域について人口を維持していく地区と縮退を図る地区とに分けて記述しているが、具体的なエリアはわからない。ここで書かなくてよいものなのだろうか。

一つの考え方として、方針はこのようにしておき、今後の検討課題として町丁目レベルの人口増減の細かい分析に基づいた住宅地の将来像を書いても良いのかと思う。

- 委員長 今の話は全体との絡みもあるが、事務局ではどのように捉えているのだろうか。
- 事務局 全体的な考え方として、人口減少で都市が縮まっていくことは、避けられないと思っている。また、そのエリアをどう表現していくかであるが、都市マスの中では人口が減り集約型で拠点に人を集めていく方向を書きおきたいと思っている。具体的には立地適正化計画を将来検討していく中で居住の誘導を見える形にしていきたい。拠点は図の中に書き込むので、居住の誘導区域は立地適正化計画の方に委ねたいと思っている。
- 委員 書きぶりは淡々で行うべきことが書かれていると思うが、地区のあるべき姿を描いていく中で、表現として横須賀市にとって追浜地区が果たすべき役割、期待される機能があると思う。それは産業であり、広域的な要請があると考えている。そういった観点を変えた考え方も全体の中に含ませていった方が良いと思う。
- もう一点は、4頁の緑地等の方針に「鷹取山周辺の緑地は～」という記述がある。航空写真を見るとわかるが、鷹取山の自然を支えているほとんどの緑地は、逗子と葉山や横浜にかけて形成されている。背後にある緑地との連携という意味で、近隣市町との連携についても言及しておいた方が良いと考えている。
- 事務局 市全体の中での地区の機能については、3頁の「地区の特徴」のところで述べたいと思っている。みどりの連携については、指摘された通りであり書き方を考えていく。
- 委員 6頁の「都市魅力の創造方針」は新たに付け加えられたということで、ここでハードとは違うソフトも含まれた魅力的な部分をまちづくりに反映させることが望ましいと思っている。
- この中で、いくつかのカテゴリーに分けて個々の魅力がつぶさに記入されている。「便利で活気のあるまち」は、追浜地区の4割が産業用地という特徴があり、相当数の就業者が行き来をしている一方、そこに住んでいる方もいることを示している。つまり、就業者と地区の方々の共生が良くできているまちなのだと思う。そうした住んでいる方と地区に来る方がつくりあげた雰囲気を表現した方が良いと思う。
- 「便利で活気あるまち」という表現に加え、“産業との共生がある”といった産業面を取り込むような表現があっても良いのではという印象がある。
- 事務局 6頁に「産業、商業、住宅が調和した便利で活気あるまち～」というように表現をしたつもりであるが、いま言われたようなニュアンスを入れていきたいと思う。
- 委員長 言い方次第で魅力的になると感じた。
- 委員 追浜地区は若い方の人口が増えていて産業もあり、活気があるエリアというイメージがある。具体的には、いま人口が増えているが、市民の意見にもあるように「若い人が過ごせる場所が少ない」という声も聞く。地理的にも横浜の方へ休日は人が

流れていくと想像される。商業施設のところで「拠点商業業務地とします」とあるが、具体的に進んでいて成果が出ていることがあれば、記述に加えると良いと思う。

委員長            いまの点を踏まえて検討していただきたい。追浜は駅前だけでなく、話を聞いてみると海の方まで行くといろいろな出会いがあり、魅力的な地区だと図面からも読みとれて、図を付けた意義は大きいと思う。

委員                昨今の取り組みでは、平日は商店街で日中に駐車禁止をなくし車を止めやすくすることで、商店街を利用しやすくしている。また、休日には追浜球場の周りの駐車禁止を解除して、車を停めて利用できるようにしている。平日と休日に分けてそうした取り組みをやりながら、商店街もなんとか維持している。  
また、いままで地元住民が追浜の中で施設を利用することがあまりなかったが、こうして魅力を出してみると多くある。  
「スポーツと憩いの拠点」と表現されているが、追浜公園や横須賀スタジアムは素晴らしい施設であり、「都市魅力の創造方針」に、ぜひ追浜の中の“スポーツと憩いの拠点”の記述をもう少し具体的に入れていただきたい。

委員                都市魅力の創造方針に載せている写真について、注釈を表記していただきたい。地区の特徴として文中に書かれているが、初めて見る人でも分かるように写真に注釈が書かれていれば、内容がいきいきと想像できると思う。

委員長            まだ内容的には進行途上だろうが、魅力創造の図に共通の凡例などを加えて、より見やすくした方が良いと思う。今後は、いただいた意見をさらに盛り込んでいってもらいたいと思う。

委員                4頁に「住まいと職場の魅力を高めるまちづくり」という目標があり、6頁に創造方針には「便利で活気あるまち」とあるが「～づくり」が入っていない。「まち」をつくることと「まちづくり」を目指すのでは大分違いがある。  
穿った見方をすれば、「便利で活気あるまち」と書いてあれば、これが達成されなければ駄目である。「まちづくり」だと、まちをつくるための第一歩を踏み出した時点で達成される感じがする。できれば「～まち」の方が良いと感じるので、検討していただければと思う。  
2点目に、住宅地や商業業務地などの項目の並び順は、方針を進めていく優先順位を付けて並べた方がよいのではないだろうか。  
3点目に5頁の「(4)交通整備の方針」で「国道16号及び国道357号の都市計画決定区間の早期整備と～」とあるが、市に権限があるのか。市に権限があるのならば、整備のための費用はあるのだろうか。「早期整備」と書いてしまうと期待をもたせるだけになってしまう。市の財源や権限を見ながら、実現可能な部分で書いておいた方が良いのかと思う。現実を見た計画づくりが重要だと思う。

- 事務局 最初の件は、「まちづくりの目標」のところで、全部通して「～づくり」を付けていて、マスタープラン全体がまちづくりとなっている。それが良いのかどうかは検討させていただきます。
- 優先順位については、いま押しなべて載せているが、出来るもの出来ないものとなると、実現していくものと政策的にねらっていくものと二つあり、難しいところがある。考えさせていただきたい。
- 国道 357 号については、国の事業であり市は権限を持っていない。国に要望として早期整備をお願いしているので、「早期」という言葉は入れさせていただきたいと思う。
- 委員長 追浜について形式も含めて他にいかがでしょう。
- 委員 追浜について、記述に力を入れていることを、少し意外に思った。交流人口の促進を考えた場合には、本庁地区のまちづくりに関して力を入れていかなければならないと考えている。本庁地区の魅力資源にはどぶ板通りや軍港などいろいろとあり、交流人口の促進を考えると、本庁地区の充実を一番に考えなければいけないと思う。どぶ板通りイコール横須賀ということで、市外の皆さんは期待して来るが、店が活気づいていないと言われる。どぶ板通りだけでもやることはたくさんあり、市として力を入れなければならないと思う。
- 委員長 魅力の方針は、純粹に住んでいる方々向けの情報なのか、それとも追浜地区だけではなくいろいろなところが輝いて交流人口を促すという決意なのか、どのような考え方で書いているのかを説明していただきたい。
- 事務局 いまは主にネットワーク型の都市づくりというものを考えている。それぞれ地区の拠点があり、その良さを活かすまちづくりをしたいと思っている。
- 委員長 全体の考え方についてはよろしいでしょうか。これから先は時間の都合で、残り 3 地区について重要と思われる意見を出していただければと思う。
- 事務局 どぶ板通りについては、多くの市外からの方が、期待されていらっしゃると思う。商店の状況は、実際には夜の顔と昼の顔があり、表情も違ってくると思う。魅力創造という部分では、本庁地区の記載の中でどぶ板通りについても、もう少し手厚くやっていければと思っている。
- 委員 このプランは 20 年後という長いスパンあり、この話を今後、各連合町内会議などでされる予定はあるのだろうか。
- 最近、長井でジャカルタから 40 名弱が来て民泊した。これは宿泊機能ではなく、民泊という一般家庭を対象にした宿泊体験であり、旅館業法の民宿とは意味が違うので、記述を考えていただきたい。
- 横須賀は基地のまちということで、標識に英語表示を入れたり、いろいろと行って

いる。その他に、できるかできないは別に、汐入駅や横須賀中央駅辺りの街灯を水銀灯からアメリカのようにナトリウム灯に変えて、駅を降りたときに基地のまちな印象にしてはどうかということがあった。

今後の進め方について、この検討会議が終わった段階で、年度別に項目を分けて、長いスパンと短くすぐ出来るものに分けて、進行管理をしていくのかを知りたい。また、逸見の国道 16 号に出る道路の拡張について、逸見駅の近くの部分は将来拡張する予定があるのかお聞きしたい。

委員長 民泊と街灯の件は、後ほど意見を伺い確認することとして、連合町内会の手続きの関係や今後の短・中・長期の予定と逸見駅近くの道路拡張について、事務局から答えていただきたい。

事務局 都市マス策定後の進行管理については、実現性のあるものと政策的にねらっていくものという二つの視点があるため、年度別の進行管理は難しい面があるが、検証しながら見直しに向けた検討を進めていく必要はあると考えている。  
逸見駅から国道 16 号に至る道路の狭い部分の拡幅予定については、いま都市計画事業認可という形の中で既に事業化が始まっている。事業期間は用地の取得から道路整備という段階に移るので時間はまだかかるが、事業としては進んでいる状況である。

委員長 地区別の対応については、何か説明会などはあるのだろうか。

事務局 この都市計画の案について一度、シンポジウムを開催させていただきたいと考えている。ちょうどパブリックコメントで市民の皆さまに意見を伺っている段階で開催し、横須賀市の考え方を広く示していけたらと思っている。

委員 本庁地区は「アメリカの匂いを感じる」といった方針を以前、資料に示されていたと思う。今回の本庁地区には「アメリカ」という言葉が出てこないが、その点の政策誘導は諦めたのだろうか。

逸見地区の 17 頁の「交通網の骨格形成」について、「JR 横須賀駅を拠点として、公共交通のネットワークを形成します。」とある。他の地区は行政センター管内の道路が整備されれば活性化につながると思うが、JR 横須賀駅の場合、駅前広場がヴェルニー公園方面に伸びているので、拡大して逸見地区にメリットはあるのだろうか。この公共交通のネットワークは拠点からどのように整備されていくのか、事務局の持っているイメージをお聞かせ願いたい。

事務局 現在、逸見駅前の道路整備が進行中である。従来は道幅が狭かったのでバス通りになっていないが、地区の方々の希望としてもバス通りとしての整備、開通に強い要望がある。その時に起点となるのは、横須賀駅周辺やウエルシティという行政施設や逸見駅周辺になると考えている。そうした視点を含めて、交通結節点機能の強

化を書いている。

本庁地区の「アメリカ」についての記載は、アメリカという色合いの濃さがあり、いろいろなところで様々な意見をいただいている状況であり、今回のような記述となっている。事務局として大きくトーンダウンさせているということはないので、引き続きいただいた意見については検討を行っていきたいと思う。

委員 本庁地区の市民の意見に、津波の被害が心配ということが出ている。平成町のうみかぜ公園などを歩いていても津波が心配だという印象がある。都市マスの中に津波対策についての文言を具体的にどこまで入れるべきなのか、避難所も含めて触れておいた方が良いのではないかと。

事務局 津波を始めとする防災については、地区別に個別の事業化が明確になっている場合は記述を入れていけるが、難しい面もある。市全体として捉えた防災の視点として、全体の整備方針の中で触れていく形を考えている。

委員長 本庁地区は全体の中でも津波の心配があるのならば記述した方が良いと思うが、どうだろうか。

事務局 津波の浸水の想定の中では、平成町にも浸水の区域が入っている。本庁地区については現在の段階では記述を入れていくことを考えていないが、検討していく。

委員長 本庁地区のように人数が多いと、心理的に多くの人が津波について思っているかもしれないので、検討していただきたい。

委員 葉山町管内にイノシシが出没している。農作物の被害があり、大楠でも小学校近辺の住宅に出没していると聞いている。ハイキングコースの環境整備をしていくということだが、イノシシが出て危険である。都市マスでも、人に被害がでないように考慮してもらいたい。

委員 本庁地区の特徴は、アメリカやどぶ板通りの話があったように、国際色や異文化交流であり、ここから外せないと思っている。アメリカという直接的な国名ではなくて、国際色や異文化交流のニュアンスを入れることで、だいぶ違ってくるだろう。横須賀の特徴である谷戸について、田浦地区では「自然に調和し〜」、逸見地区においては「生活環境を改善する」という表現が使われている。田浦の谷戸は、梅の里などの地形が醸し出す自然環境が特徴であると思う。12頁に「谷戸の魅力発信」とあるが、“緑や公園の季節に応じた地域の特徴の魅力発信”といった表現の方がより一層、田浦地区を表現できると思う。

委員長 その辺についても今後検討していただきたい。内容の検討についてはここで終了させていただく。

#### 4. その他

- 事務局より、横須賀市マスタープラン検討会議意見等提出シートについての説明と依頼及び次回スケジュールについての説明を行った。

#### 5. 閉会